

SHIMANE  
UNIVERSITY  
LIBRARY  
Annual Report  
2008

島根大学附属図書館年報 2008

SHIMANE  
UNIVERSITY  
LIBRARY  
Annual Report  
2008





# 新しい附属図書館の 役割を見据えて。

時代の要請に応えるべく、島根大学附属図書館は進化し続けています。書籍の収集・管理及び学習環境の提供という基幹サービスについてはもとより、高度ネットワーク社会に対応し、かつまた大学法人化を経て地域とのつながりを強化する新たなサービスの拡充にも積極的・自発的に取り組んでいます。

まず電子化資料については、世界的な潮流となっている学術情報リポジトリの整備に早い時点から積極的に取り組み、SWANと名付けたシステムの運用を開始していますが、このフレームワークを活用して、各地の膨大な遺跡資料を電子的に統合管理し、利用拡大を図る試みに着手しました。一方、教員や学生の先進的な教育研究活動を支える道具として、電子ジャーナルは今日では欠くべからざるものになっています。限られた予算の中で、これを継続的に維持していくことは容易ではありませんが、日本、ひいては世界の将来を担う人材の育成を支えるためにも、利用者の意見を踏まえつつ、前向きに検討・整備を重ねています。

一方、学生の学習支援という観点からは、情報副読本「学術情報リテラシー」を継続して出版したほか、学生による選書企画・選書ツアーの実施ならびにリユース市を2008年度も開催しました。これらに加え、「ブック★コンパス」と名付けた、特定のテーマで図書を紹介するコーナーを本館1階に設け、学生に新たな視点での発見を促すきっかけ作りとしました。

社会連携に関しては、公共図書館との連携に加え、高等教育機関の連携を強化するために、島根県立大学メディアセンター及び松江工業高等専門学校図書館と本学附属図書館で、島根県大学・高等専門学校図書館協議会を設立しました。一方、公共図書館との間で昨年度までに締結した相互協力協定の上に立ち、「大森文庫」ならびに「ラフカディオ・ハーン」に関連した講演会・展示会をそれぞれ開催し、一般市民の方々から大きな反響をいただきました。

さらに、図書館のもうひとつの顔であるホームページを一新しました。1回のキーワード入力で、蔵書から学術論文、そしてwebページに至る情報を、タブの切り替えだけで連続的に検索できるサーチボックスなど、利用者の目線に立って改善に取り組みました。利用者の知的活動増強の一助になればと願っています。

この「島根大学附属図書館年報」の発行を通して、附属図書館が考え、そして取り組んできた活動の全貌をご覧いただければ幸いです。皆様のご要望に応えられるように取り組んでいきますので、今後ご理解・ご支援よろしくお願いたします。

附属図書館長 平川正人





## c o n t e n t s

### 新しい附属図書館の役割を見据えて

- Topics ..... 4

### 図書館の動向

- デジタル・アーカイブシステム ..... 9
- 研究開発室の活動状況 ..... 10
- 島根大学の電子ジャーナル ..... 12
- 社会連携 ..... 14
- 学術情報リテラシー講習会 ..... 16

### 統 計

- 基盤統計 ..... 18
- サービス統計 ..... 20

図書館日誌 ..... 22

### 年間刊行物

新聞等で報道された附属図書館

組 織

人事異動



## 島根県大学・ 高等専門学校 図書館協議会設立

島根県立大学、松江工業高等専門学校、島根大学の図書館及びメディアセンター\*6館による、島根県大学・高等専門学校図書館協議会が設立されました。3つの大学・高専は、それぞれ異なる学部構成を持ち、カバーする専門領域が異なることから、図書館の蔵書構成やコレクションにもそれぞれ特色があります。協議会では、6館による有機的な図書館ネットワークを構築することで、各館が持つ様々なリソース（学術情報・施設・人）を相互に有効活用し、各館のサービスの向上を図ることを目指しています。

協定書調印式に続いて行われた総会では、会則及び相互利用実施要項が承認され、直接来館利用や物流システムによる相互貸借が開始されました。

【2008（平成20）年4月】

\* 島根県立大学（浜田、松江、出雲キャンパス3館）、松江工業高等専門学校、島根大学（松江、出雲キャンパス2館）

### 島根県大学・高等専門学校図書館協議会 設立に関する協定書調印式



## 遺跡資料リポジトリ・プロジェクト始動

国立情報学研究所の次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業として、本学が代表機関となっている「遺跡資料リポジトリの構築」プロジェクトが採択され、2008（平成20）年度は中国5県域を対象としてスタートしました。

遺跡資料リポジトリは、全国の各都道府県域で発掘・調査・出版される遺跡調査報告書の電子版を各県域単位で構築することで、考古・歴史学分野における学術情報基盤を形成し、貴重な文化遺産記録

の利活用を推進するものです。プロジェクトは、各地域の国立大学と自治体文化財部署との協力・連携事業として位置付けています。平成21年2月26日（木）には、岡山大学附属図書館で大学関係者や自治体担当者を招き、「遺跡資料リポジトリセミナー」を開催しました。

【2008（平成20）年5月】



## 図書館ホームページ リニューアル

3年ぶりとなる今回のリニューアルでは、大幅なメニュー項目の見直しを行い、利用者(学外・松江・出雲キャンパス)ごとに相応しいメニュー表示ができるようにしました。また、サイドメニュー(画面右)を設け、利用率の高いメインメニュー(画面中央)と切り分けることによって、より情報の整理された見やすいレイアウトとしました。更に、タブを切り替えるだけで蔵書検索、ジャーナル検索、論文検索、サイト検索、Web検索ができる検索ボックスと、さまざまな電子リソースを集約したAcademic Resource Bank(ARB)は、今回のリニューアルに伴う図書館のイチ押しツールです。

【2008(平成20)年6月】



## 「ブック★コンパス」 スタート

毎回テーマを変えて図書館の蔵書を展示する「ブック★コンパス」コーナーを、本館カウンター横に設けました。図書の出冊数が年々減少する中で、利用者と図書館資料との新しい出会いの場となるよう、特に学生の興味をひくようなテーマ選定と、親しみやすい展示レイアウトを心がけています。2008(平成20)年度は、『文学賞を読む』『人は旅をする』『アカデミック・スキルズ』『学生選書』をテーマとしました。

展示資料も借りることができるため、期間中はコーナーの資料がほとんど貸出中のこともあるなど、学生には好評でした。1年間の展示数は約250点、貸出回数は350回を超えました。

【2008(平成20)年6月】



## 講演会 「ニュージーランドにおける 図書館の学術的サービス」開催



島根県大学・高等専門学校図書館協議会設立記念として、松江高専が国際学術交流協定を締結しているニュージーランドのワイカト・インスティテュート・オブ・テクノロジー(Wintec)の図書館長 Sarah-Jane Saravani 氏の講演会を開催しました。ニュージーランドにおける図書館事情やWintec図書館の現況などが紹介され、協議会会員職員のほか、県内公共図書館関係者など40名が参加し、情報リテラシーや電子情報、図書館連携などについて活発な質疑応答が行われました。

【2008(平成20)年7月】

◆講演会  
「ニュージーランドにおける図書館の学術的サービス」  
【日時】平成20年7月2日(水)  
【会場】島根大学附属図書館本館  
【講師】Sarah-Jane Saravani (Wintec図書館長)



## 合同企画「出雲にもたらされた 華岡流医術の世界」 企画展示・講演会開催

医学分館と出雲市立図書館との合同企画として「出雲にもたらされた華岡流医術の世界」を開催しました。大森不明堂三楽に縁のある華岡青洲や西山砂保、シーボルト、また江戸時代後期に出雲の地で行われていた医療についての興味深い講演が行われたほか、展示会では、全身麻酔下での乳癌手術に世界で初めて成功した華岡



青洲、彼に学んだ郷土の医師大森不明堂三楽、西山砂保、西山砂保に修業証書を与えたシーボルトについての史料を紹介しました。

【2008(平成20)年8月】

### ◆展示会

「出雲にもたらされた華岡流医術の世界  
～島根大学附属図書館医学分館「大森文庫」に学ぶ～」

【日時】平成20年8月23日(土)～24日(日)

【会場】出雲市立出雲中央図書館

### ◆講演会

【日時】平成20年8月23日(土)

【会場】出雲市立出雲中央図書館

【演題および講師】

「出雲神話と華岡青洲」

小林祥泰(島根大学医学部附属病院長/理事)

「シーボルトと西山砂保、華岡青洲」

ト部忠治(郷土史家)

「華岡家における乳岩手術と外科手術」

梶谷光弘(斐川西中学校長)

## ILLシステム地域講習会開催

国立情報学研究所との共催で、NACSIS-ILLシステム講習会を島根大学総合情報処理センターを会場に開催しました。NACSIS-ILLシステムは、全国の大学図書館間において、文献複写や現物貸借の依頼や受付のデータをやりとりし料金決裁をするためのシステムで、全国1,087の大学等の機関が参加しています。

中国・四国地区においては毎年持ち回りで講習会を開催しており、

今回は中国・四国地区を中心に、全国の国公私立大学から24名の図書館職員が参加しました。講師は、島根大学附属図書館2名、鳥取大学附属図書館、岡山大学附属図書館から各1名の4名が担当しました。

【2008(平成20)年9月】

## デジタル・アーカイブ システムの 学内運用開始

附属図書館研究開発室が中心となり構築を進めてきたデジタル・アーカイブシステムが、10月に完成しました。このシステムは、学内外の歴史的・学術的な貴重資料などをデジタル画像として収集、蓄積・保存し、大学や地域社会における調査、研究、教育活動のために提供するものです。本学で所蔵する貴重資料のほか、地域資料を含め、約50,000件(2009年3月末現在)を超える画像データを利用することができます。

【2008(平成20)年10月】



### 3館 合同企画

## 「アメリカのラフカディオ」シンポジウム・企画展示開催

松江開府400年祭の協賛事業として、3館（松江市立図書館、島根県立図書館、島根大学附属図書館）合同企画による「アメリカのラフカディオ」シンポジウム及び企画展示を開催しました。この企画は、ラフカディオ・ハーンの世界形成期ともいべきアメリカ時代の足跡を、シンポジウムと企画展示でたどろうとするものです。

シンポジウムでは、熊本大学の西川盛雄先生による基調講演に続き、新進気鋭の若手研究者お二方による講演とパネルディスカッションが行われました。また、ハーンの曾孫にあたる島根県立大学短期大学部の小泉凡先生により、アメリカ時代のハーンの世界をたどる写真解説と、ハーンがアメリカにいた頃の音楽のピアノ演奏が披露されました。

【2008（平成20）年10月】

#### ◆展示会

##### 「アメリカのラフカディオ」

【日時】平成20年10月25日（土）～11月2日（日）

【会場】松江市総合文化センター・松江市立中央図書館



#### ◆シンポジウム

##### 「アメリカのラフカディオ」

【日時】平成20年10月25日（土）

【会場】松江市総合文化センター

■司会・進行 長岡真吾（島根大学）

##### ■基調講演

「ラフカディオ・ハーンの世界形成期  
～クレオール俚語集『ゴンボ・ゼーブ』のこと～」  
西川盛雄（熊本大学）

##### ■パネルディスカッション・講演会

【演題および講師】

「弱者へのまなざし  
～シンシナティのラフカディオ・ハーン～」  
ロジャー・S・ウィリアムソン（北九州市立大学）

「世紀末の激変のはざままで ～『オズの魔法使い』と  
ラフカディオ・ハーン～」  
中川智視（一橋大学大学院博士課程）

##### ■解説・演奏

「ハーンの世界形成期～シンシナティ・ニューオリンズ・  
マルティニーク～」

【ピアノ演奏】「ハーンが聴いたニューオリンズの音」  
小泉凡（島根県立大学短期大学部）

## 第4回 図書館蔵書リユース市

図書館で不用となった図書を販売する蔵書リユース市は、第4回目を開催しました。リユース市で提供する図書は、ほとんどが書庫や研究室から返却された図書の重複本です。年々狭隘化する書庫スペースを確保するため、遡及入力と並行して重複図書の廃棄を進めていますが、特に2008（平成20）年度は作業が進み、1万冊を超える図書を提供することになりました。

開催を待ちかねた学生や市民など、学内外から多数の来場があり、3,479冊と販売数量も売上げも過去最高となりました。環境面にも配慮した取り組みということで、他大学でも開催するところが増えてきています。

【2008（平成20）年11月】



## 教員懇談会開催

大学の教育・研究活動の基盤となっている電子資料や図書館のコレクション整備などについて、意見交換を行い図書館サービスの改善をはかるため、学部ごとに教員との懇談会を開催しました。延べ29名の教員の参加があり、平川館長をはじめとした図書館との間で、今後の電子ジャーナルやデータベースの整備、研究成果の公開、授業と連携した学生用図書の整備や教育・学習支援のあり方など、図書館に関わる多様なサービスについて活発な意見のやりとりがありました。

【2008（平成20）年12月】

## 貴重資料の購入

図書館の特別コレクションの充実、特に人文社会系資料整備の一環として、図書館資料費と部局経費との共同購入による貴重資料の購入が実現しました。

『出雲石見魚漁図解』及び『因伯魚漁図解』は、江戸から明治にかけて鳥取から出雲・石見地方で行われていた多くの漁法について解説したのですが、地域における産業、風俗など多方面の研究にも利用できる貴重な資料です。また、2点の『出雲国絵図』は、それぞれ寛永年間と元禄年間のものと思われ、既蔵の国絵図と合わせて、図書館のお宝がまた1つ増えました。【2009(平成21)年3月】



寛永出雲国十二郡絵図



元禄出雲国絵図

## 『学術情報リテラシー』(第3版)を發行

実践的な情報活用能力を身につけるための副読本『学術情報リテラシー:情報活用能力の向上のために』の第3版を刊行しました。附属図書館と大学の情報部門が共同編集したこのテキストは、「情報リテラシー」という概念を幅広い視点から捉え、パソコンやネットワークの基礎知識からアプリケーションソフトの操作方法、学術情報を探索するためのツールの活用方法に至るまで、幅広い項目が網羅されています。



図書館ホームページ上でも公開しており、日常の情報収集からレポート・論文作成まで、あらゆる場面で活用できます。初版発行時より、新入生全員にオリエンテーションで配布しています。

【2009(平成21)年3月】

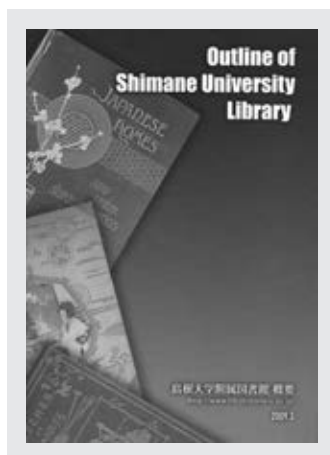
## 図書館広報誌リニューアル

附属図書館では、タイムリーで効果的な広報の在り方を検討してきました。7月に『島根大学附属図書館年報 = Annual Report』を創刊したほか、従来からの図書館報『淞雲』及び『附属図書館概要』もリニューアル発行しました。

『年報』は、図書館の1年間の活動や事業を図やグラフ、写真を用いながら簡潔にまとめた事業報告で、毎年年度はじめに発行します。『淞雲』は、図書館の動向を解説する記事や利用者からの投稿記事などを中心として雑誌風に編集しています。学生や教職員が対象で、図書館と利用者をつなぐコミュニケーション誌として年1~2回発行します。『概要』は、附属図書

館のアウトラインや歴史、事業の概要を写真や図を用いながらコンパクトにまとめた冊子で、数年毎に発行します。また、本館ではよりタイムリーな広報を行うために、2009(平成21)年度からニュースレターを発行します。

【2008(平成20)年】





## デジタル・アーカイブシステム

附属図書館研究開発室を中心として「デジタル・アーカイブシステム」を構築し、学内に公開しました。このシステムは平成19年11月に公開した「デジタル・アーカイブ閲覧システム」の基幹部分にあたるもので、学内外の各分野の歴史的・学術的な貴重資料など、大容量のデジタル画像をアーカイブし、権利処理やアクセス制御機能のもとで学術研究・教育利用及び調査活動等の各プロセスや成果公開等を支援するものです。

### 1.機能と特徴

#### ○電子資料としての利便性

資料の特性に応じてデジタル処理された画像データは、拡大・縮小が容易に行えるため細部まで調査ができるほか、ページをめくるイメージでの閲覧利用が可能です。また、画像の複写が容易なため、論文等への掲載と引用がより行いやすくなっています。

#### ○検索機能

検索の手がかりとなるメタデータ（書誌情報やその他関連情報）を付与されたデジタル画像をネット上で利用できるため、多様な検索キーにより資料を検索し、そのまま利用することができます。

#### ○保存対策

デジタル画像を代替利用することで、資料現物の劣化や損傷を防ぐことができます。

#### ○公開ステータス管理

資料に応じて公開ステータス（学外公開・学内公開・館内利用・認  
承利用・非公開）を付与できるため、一般公開ができない調査・研究  
途中の資料について、利用者を限定することができます。また、調  
査終了後、学外への一般公開も容易にできます。

#### ○共同調査・研究支援

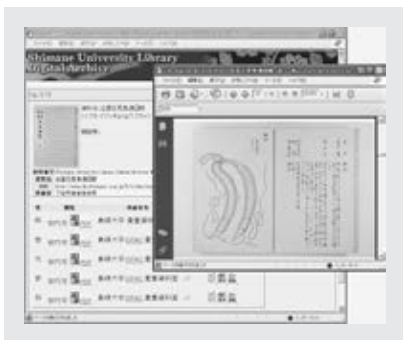
調査・研究グループの構成員にユーザIDを付与し認証機能を利用することで、学外の共同研究者を含む研究グループが、利用制限のある資料を使って効率的に共同調査・研究を進めることができます。

#### ○地域資料アーカイブ

島根大学所蔵の資料だけでなく、地域の図書館、資料館等の機関や、個人が所蔵する資料をデジタル化してアーカイブすることで、貴重な学術資料の発掘と調査を促進し、公開により地域の文化遺産を広く共用することができます。

#### ○利用条件表示

資料の所蔵者によって複写・掲載の利用条件が異なる資料も、個別に利用条件を表示することによって、円滑で公正な利用を促進することができます。



詳細表示画面及び本文表示画面

### 2.権利処理

地域の図書館や個人が所蔵する資料をデジタル化してアーカイブする際に、その所蔵者や著作権者との間で資料のデジタル化、デジタル画像の保存・公開、利用についての覚書を取り交わし、デジタルデータの利用に関する権利の寄託を受けています。一方で、第三者がデジタル・アーカイブに搭載されたコンテンツを利用して復刻出版や商業的な利用を行う場合にも、その利用者との間で覚書を取り交わします。

### 3.コンテンツの収録状況

2008（平成20）年度のコンテンツ収録状況は（表1）（図1）のとおりで、本学が所蔵する資料は、全収録数の92%を占めています。一方、学外機関や個人が所蔵する資料は8%ですが、今後、研究開発室を中心に、デジタル化を進めていきます。学外公開まで至ったコンテンツは9%と少ないものの、今後資料の調査・研究が進むにつれて、増加が見込まれます。

表1 収録コンテンツ内訳（2009.3末現在）

資料グループ	件数	コマ数
貴重資料	203	7,219
桑原文庫	274	11,738
熊谷家文書	393	11,977
大森文庫	131	5,413
堀文庫	18	257
海野文庫	2	163
田中文庫	3	281
林家文書	1	11
坂根家文書	175	5,654
寺本家文書	101	5,202
今浦文書	33	982
学外資料	120	6,391
合計	1,454	55,288

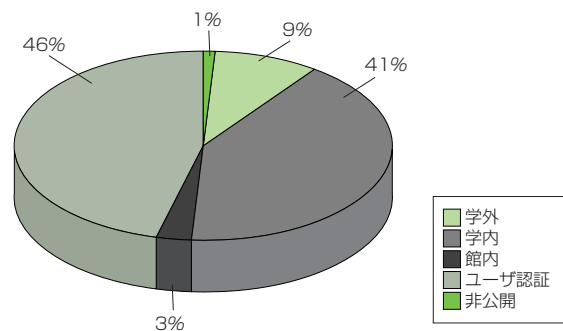


図1 公開範囲内訳（2009.3末現在）

## 研究開発室の活動状況

2008(平成20)年度の研究開発室事業として、学内教員及び地域研究者の協力を得て、次の5つのプロジェクトを推進しました。

### 1. 専門部会の活動

#### (1) 貴重資料:歴史・地理系専門部会

前年度に引き続き、附属図書館所蔵の貴重書や、地域の機関・個人が所蔵する貴重資料の目録作成及び電子化を進めました。

##### ○定秀家文書(松江市美保関町)

松江市教育委員会との共同プロジェクトで整理、電子化を推進しました。

##### ○石井家文書(鳥取市青谷町)

天文・地理学、測量学、和歌・句集のほか伊能忠敬関連の史料

##### ○熊谷家、今浦家、林家、坂根家文書、因伯魚漁図解、出雲石見魚漁図解、島根県内農具図解や出雲国風土記など

図や挿し絵を豊富に含む貴重資料について、約4,000コマの画像電子化を実施しました。



いずもいわみぎょりょうまかい  
出雲石見魚漁図解

#### (2) 貴重資料:国書・漢籍系専門部会

図書館所蔵資料のうち、資料価値の高い桑原文庫の中の歌学関係資料や地域の貴重資料の電子化を実施し、デジタル・アーカイブに収録しました。

○雲陽秘事記、歌学貴重書(嫁入本)、石見名所集方角図解などの所蔵貴重資料や、出雲国名所歌集、八雲琴譜、山下水など地域資料の電子化を進めました。

○図書館所蔵の堀文庫(江戸-明治期の津和野の貸本屋書籍等)について、法文学部言語文化学科の授業の中で、学生の調査、整理の実習教材として書誌作成及び電子化作業に活用しました。



おんふういもはるやま  
歌吹妹青山

#### (3) ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)専門部会

ハーンの米国新聞記者時代の新聞電子化を、小泉八雲記念館等の協力を得て行いました。また、松江開府400年協賛事業として、「アメリカのラフカディオ」をテーマにした企画展示・シンポジウムを、島根県立図書館、松江市立図書館との3館共同で開催しました。ハーンデータベースについては、新規データ収集や分類体系の再検討を行い、プロトタイプ構築と学内レベルでの試験公開を行いました。





#### (4) 古医書及び大森文庫専門部会

華岡青洲関係医学書を中心とした大森文庫について、「傷寒論記聞」ほかの写本など88冊-3,850コマの電子化を行ったほか、破損・虫損が進行している掛け軸等について、補修、表装を行いました。また、医学分館と出雲市立図書館共催による講演会「出雲にもたらされた華岡流医術の世界」及び大森文庫の貴重資料展示を、出雲中央図書館で開催しました。



#### (5) 電子図書館推進専門部会

2008(平成20)年4月に新設した専門部会で、最新のIT技術を生かした電子図書館機能による利用サービスの向上や、デジタルデータの利活用などをテーマにしています。2008(平成20)年度は、シラバスデータベースとOPAC連携、図書館情報システム更新にかかる次世代サービスの調査・検討を行いました。

また、平成20年9月30日に公開、運用を開始した「デジタル・アーカイブシステム」により、電子貴重資料の収集・蓄積と、ネットワークによる利活用環境を整備しました。

## 2. 研究開発室の環境整備・経費の確保など

貴重資料の調査・目録及び電子化作業のための場所として、本館新館3階の特別閲覧室に電子化機器を設置し、原資料を用いた授業や実習スペースにも利用できるような環境整備を行いました。

経費面では、「島根大学及び島根地域における貴重資料の調査、電子化及び公開推進プロジェクト」により、政策的経費等の配分を受けています。



室員名簿 2008(平成20)年度

所 属	氏 名
室 長(附属図書館長)	平 川 正 人
<b>(1) 貴重資料:歴史・地理系専門部会</b>	
教育学部特任教授	相 良 英 輔
法文学部教授	竹 永 三 男
法文学部准教授	舩 杉 力 修
法文学部准教授	小 林 准 士
島根大学名誉教授	松 尾 寿
<b>(2) 貴重資料:国書・漢籍系専門部会</b>	
法文学部教授	蘆 田 耕 一
法文学部教授	田 中 則 雄
法文学部教授	要 木 純 一
島根大学名誉教授	下 房 俊 一
<b>(3) ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)専門部会</b>	
教育学部教授	高 瀬 彰 典
法文学部教授	長 岡 真 吾
島根大学名誉教授	常 松 正 雄
<b>(4) 古医書及び大森文庫専門部会</b>	
医学分館長	富 岡 治 明
医学部附属病院長	小 林 祥 泰
医学部教授	小 林 裕 太
<b>(5) 電子図書館推進専門部会</b>	
附属図書館長	平 川 正 人
法文学部教授	野 田 哲 夫
教育学部教授	森 本 直 人

## 島根大学の電子ジャーナル — 第四期学術情報基盤整備計画に向けて —

島根大学で利用できる電子ジャーナルと基盤系データベースは、本学の各分野をカバーする電子ジャーナル約7,800タイトルについて、全学共通経費を主な財源とした「学術情報基盤整備計画」により充実を図ってきました。電子ジャーナルは教育・研究活動に不可欠の学術情報基盤ですが、毎年価格が上昇するため、昨今の大学の財政状況下では、安定的・継続的な維持が次第に困難になりつつあります。

島根大学では、第一期学術情報基盤整備計画(平成13-15年)でのAcademic PressやElsevier Scienceなど9系列約5,900タイトルの導入に始まり、以後継続的にタイトル整備を行い、第三期学術情報基盤整備計画(平成19-21年度)では6,700タイトルが利用できるようになりました。

### 1. 電子ジャーナルと利用状況

電子ジャーナルは、データベース連携や全タイトルを分業別、タイトル別にアクセスできるe-Journal Access Page、リンクリソルバーなどの利用支援システムにより、着実に利用が伸びています。基盤整備計画で導入した電子ジャーナルの2008(平成20)年に

おける論文利用単価は平均462円で、論文単位の利用形態であるPay per Viewの1件3,000円と比較しても、コストパフォーマンスに優れています。

電子ジャーナル利用統計(ダウンロード件数、利用単価)

パッケージ名	2005 ダウンロード件数	2006 ダウンロード件数	2007 ダウンロード件数	2008 ダウンロード件数	
Blackwell: Synergy	8,043	11,645	10,187		Wileyに統合
Cambridge Online Package	2,652	2,583	1,359	1,055	
Elsevier: Science Direct	64,302	74,030	74,350	77,698	
JSTOR	1,333	1,688	1,972	2,331	
Nature & Research誌	15,650	14,028	10,866	7,091	
Oxford Online Package	2,168	2,510	5,106	3,944	
ProNAS	1,213	1,068	2,644	2,123	
ProQuest	3,007	4,482	3,718	3,822	
Science	2,413	2,286	2,093	2,190	
SpringerLINK	14,064	13,435	14,014	15,863	
Wiley InterScience	11,315	10,623	9,636	22,843	Wiley+Blackwell合併
合 計	126,160	138,378	135,945	138,960	

### 2. 教員懇談会及び電子ジャーナル等に関するWebアンケート調査

第四期学術基盤整備計画を策定するにあたり、学内教員を対象とした教員懇談会やWebアンケート調査を実施しました。

教員懇談会は2008(平成20)年12月に各学部単位で開催し、電子ジャーナルやデータベースをはじめ、学生用図書、資料整備体制やリポジトリの推進方法などについて、人文・社会系、自然科学系それぞれの立場から意見、要望が数多く寄せられました。

電子ジャーナル等に関するWebアンケート調査は2009(平成21)年2月中旬～3月上旬に実施し、全教員の約半数にあたる339名から回答がありました。電子ジャーナルに関する設問では、「現行タイトルを可能な限り維持すべき」との要望や、経費負担方法では現行の「全学共通経費8割、学部負担2割」が意見の大勢を占めました。自由記述では、電子ジャーナルやデータベースが研究活動の主要な

学術情報源である医学部、総合理工学部、生物資源科学部などの自然科学系からは、大学規模及び地域格差を解消するため一層の整備・充実への強い要望があり、法学部、教育学部などの人文・社会科学系からは、図書、冊子体雑誌、古文書やコレクション系などとのバランスのとれた整備への要望が寄せられています。アンケートの集計結果は、附属図書館のホームページで公開しています。

<集計結果:<http://www.lib.shimane-u.ac.jp/0/an/2008/an2008.asp?mode=s>>

これらの意見や結果をふまえ、附属図書館運営委員会の中に、各学部及び専門分野代表で構成される「第四期学術情報基盤整備計



画策定専門委員会」を設置して検討を重ね、平成21年3月31日開催の附属図書館運営委員会において、第四期学術情報基盤整備計画(平成22-24年度)を策定しました。その概要は次のとおりです。

### 3. 第四期学術情報基盤整備計画の概要

#### ○基本方針

- ・学術情報基盤整備にかかる電子ジャーナルは、全学的観点から、本学の複数の専門分野をカバーするパッケージ及び、特に共通性が高く、極めて重要な数タイトルをコア・ジャーナルとして整備する。
- ・各専門分野のパッケージ及び個別タイトルは、必要とする学部・学科・講座等の経費で整備する。
- ・電子ジャーナル等の学術資源を効率的に活用できるデータベース、アクセス・ツール及び文献管理ソフトを整備する。
- ・必要とする情報へのアクセスが容易で分かりやすく、利用者がこれらのサービスを学外からも利用できる環境整備を推進する。

- ・学術情報基盤系のタイトルは戦略的に選定し、共通経費、部局経費、間接経費等を工夫して整備を図る。
- ・電子ジャーナル契約は、入念な市場調査を行うとともに、コンソーシアム等を活用し経費圧縮に努める。

#### ○選定候補タイトル

過去の利用実績やアンケート調査、基本方針などをもとに、以下の電子ジャーナルとデータベースが、基盤整備タイトル候補として選定されています。

第四期学術情報基盤整備候補タイトル

区 分	No.	電子ジャーナル/データベース名称	タイトル数
電子ジャーナル パッケージ	1	ScienceDirect (Elsevier)	1,900
	2	SpringerLINK	1,200
	3	InterScience (Wiley-Blackwell)	1,083
	4	Cambridge Online Package	154
	5	Oxford Online Package	170
	6	Nature & Research誌	11
	7	JSTOR : Arts, General Sci.	195
	8	ProQuest: ARL/ML	2,250
コア電子ジャーナル	9	ProNAS (NASUSA)	1
	10	Science (MacMillan)	1
	11	Cell	1
	12	NEJM: New England Journal of Medicine	1
データベース	13	Web of Knowledge	
	14	SwetsWise	
	15	Search Solver	
合 計			6,967

電子ジャーナルは、学術情報基盤整備計画によるほか、化学系、医学系、工学系などのパッケージや個別タイトル約700誌が、学部・講座・研究室経費で契約・維持されています。しかし、学術出版社の統合・寡占化や、パッケージによる大学サイトを単位とする一括販売形態により契約規模が大きくなり、次第に学部や講座単位では購入が困難となっています。外国雑誌の価格上昇については、全国の大学・研究機関で対応に苦慮しており、大学の個別努力では限界に来ています。

\* SPARC Japanや機関リポジトリなどによる学術論文のオープン・アクセス活動も始まっていますが、直ちに効果が享受できる状況にはありません。国家レベルでの戦略的かつ有効な学術情報基盤整備支援策がとられるまで、大学全体で経費を工夫し、タイトルを維持・継続する必要があります。

\* 日本の学協会等が刊行する学術雑誌の電子ジャーナルを支援・強化することによって、海外に流出する我が国の優れた研究成果を我が国の研究者自身の手に取り戻し、海外への研究成果発信の一層の普及を推進する事業

## 社会連携

2008(平成20)年度は、地域社会へのさらなる貢献を果たすために、従来から行ってきた地域の図書館との相互協力や企画展示・講演会を一層推進する活動を展開しました。

### 1. 島根県大学・高等専門学校図書館協議会の設立

島根県内の高等教育機関の図書館が相互に連携し、各館の充実・発展とサービス向上を目的として、2008(平成20)年4月、島根県大学・高等専門学校図書館協議会が設立されました。協議会は島根県立大学(浜田、松江、出雲の各キャンパス3館)、松江工業高等専門学校図書館、島根大学(松江、出雲の各キャンパス2館)の3機関6館で構成され、各館が持つリソース(学術情報・施設・人)を相互に活用することで、より高次元のサービスや事業の展開を目指しています。

#### ○主要行事日程

- 2008.4.25 協議会設立に関する協定書調印及び総会(島根大学)  
 6.11 実務者ワーキンググループ会議(島根大学)  
 7.2 協議会設立記念講演会(島根大学)  
 2009.3.16 職員研修会(島根大学)



職員研修会



協議会設立記念講演会

#### ○協議会の事業

学術情報の相互利用、情報発信と地域貢献、研修と調査研究の3つを柱としています。2008(平成20)年度は次の事業を行いました。

##### (1) 学術情報の相互利用

協議会の発足と同時に、「島根県大学・高等専門学校図書館相互利用実施要項」を制定し、直接来館しての貸出や、物流を利用した相互貸借を開始しました。これに伴い、各館で共通に使用できる利用案内パンフレットを共同作成しました。松江地区の3図書館については、独自に週2回の定期的な物流システムを構築し、相互貸借をスムーズに運用できるようにしています。



#### 協議会会員館利用者の本館における利用状況

	登録者数	貸出冊数
島根県立大学(浜田)	1	0
島根県立大学(松江)	26	66
島根県立大学(出雲)	0	0
松江高専	8	42
合計	35	108

##### (2) 研修と調査研究

職員研修の一環として、講演会「ニュージーランドにおける図書館の学術的サービス」を島根大学で開催しました。松江高専が国際学術交流協定を締結しているニュージーランドのワイカト・インスティテュート・オブ・テクノロジーから、Sarah-Jane Saravani館長を招聘して開催したものです。協議会会員館の職員のほか、県内の公共図書館などから40名が参加しました。また、島根大学において「機関リポトリと学術情報リテラシー」のテーマで職員研修会を開催し、13名が参加しました。

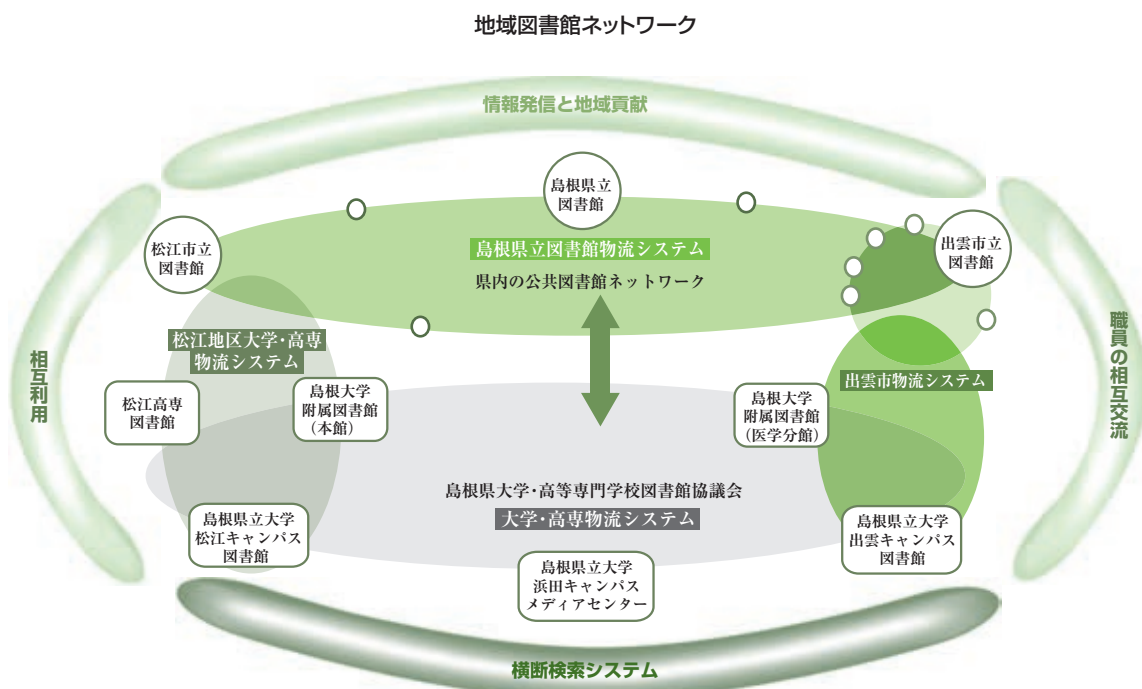


## 2. 物流システムの拡大

2007(平成19)年度から、島根県立図書館及び出雲市立図書館6館との間で物流システムを利用した相互貸借を行ってきましたが、2008(平成20)年11月に島根県立図書館が新たな物流システムを試行することとなり、このシステムを利用して、県内全域の公共図書館との相互貸借が可能となりました。前述の松江地区の大学・高専図書館の物流システムと併せて、利用者に料金負担を求めない相互貸借サービスが格段に向上しました。2008(平成20)年度の利用状況は右表のとおりです。

物流システムによる相互貸借冊数(本館)

	貸出	借受
島根県立大学(浜田)	3	3
島根県立大学(松江)	13	1
島根県立大学(出雲)	0	0
松江高専図書館	7	0
島根県立図書館	12	20
県立以外の公共図書館	12	5
合計	47	29



## 3. 企画展示・講演会の開催

2008(平成20)年度は、相互協力協定を締結している公共図書館との連携企画として、次の企画展示・講演会等を開催しました。

### 出雲にもたらされた華岡流医術の世界 —島根大学附属図書館医学分館「大森文庫」に学ぶ—

附属図書館医学分館と出雲市立図書館の合同企画

【期日】2008(平成20)年8月23日～8月24日

【会場】出雲市立出雲中央図書館

### アメリカのラフカディオ —Lafcadio in America—

島根大学附属図書館・島根県立図書館・松江市立図書館の3館合同企画

【期日】2008(平成20)年10月25日～11月2日

【会場】松江総合文化センター(プラバホール)

## 学術情報リテラシー講習会

附属図書館では、学習や研究を行う上で必要となる学術情報を活用する能力(学術情報リテラシー)の育成を支援するために、各種講習会を開催しています。2008(平成20)年度も引き続きオンデマンド講習会に重点をおいて開催する一方、図書館が主催する講習会の内容や開催回数を増やす試みを行いました。

### 1. 図書館主催講習会

図書館で、日程と内容を設定して行っています。新入生向けの図書館ツアーから外部講師を招いての特定データベース講習会まで、幅広い内容で実施しています。外部講師に依頼するもの以外は、図書館職員が講師を務めています。



医学分館オンデマンド講習会(看護学科)

### 2. オンデマンド講習会

利用者からの要望に応じて、日程、内容を調整して行っています。図書館職員が講師を務め、教員からの申込により授業の一環として行われるもののほか、学生や職員のグループ単位でも実施していません。

本館オンデマンド講習会(総合理工学部)



### 3. 傾向と今後の課題

#### 〈松江キャンパス(本館)〉

2008(平成20)年度も引き続きオンデマンド講習会に重点を置く一方、図書館主催講習会の内容、回数を増やしました。参加者は少数だったものの、アンケートでは「とても役に立った」「もっと多くの人が受けるべき」との意見がありました。今後は広報手段や日程等を工夫することで、より多くの人が参加しやすい環境を整えていく必要があります。

一方、オンデマンド講習会は2007(平成19)年度より件数は減ったものの、継続実施を希望する授業数は定着しつつあります。今後引き続き教員への広報活動を行い、拡充を図っていきます。

#### 〈出雲キャンパス(医学分館)〉

オリエンテーション、授業への参加が定着する中で、マンネリズムに陥らぬよう、内容と実施方法の見直しを行っています。看護師や臨床研修医へのオリエンテーション、文献検索講習会を実施し、医学部附属病院職員へのサービス充実も図っています。

#### 〈オンライン・チュートリアルの整備〉

2008(平成20)年度の図書館ホームページリニューアルにより、学術情報へのアクセス性が高まってきました。これに伴い、多種多様な学術情報リソースの使い方について、利用者がいつでも学習できる環境を整備する必要があります。その1つがオンライン・チュートリアルで、2009(平成21)年度より企画立案・整備を行っています。第1段階としては、図書・雑誌の探し方、基本的なデータベースの解説などを盛り込む予定です。



## 4.2008 (平成20) 年度実績

〈参加者内訳〉

		松江キャンパス(本館)	出雲キャンパス(医学分館)	合計
学 生	図書館主催	48	42	90
	オンデマンド	529	220	749
	小 計	577	262	839
院 生	図書館主催	11	0	11
	オンデマンド	1	9	10
	小 計	12	9	21
教職員	図書館主催	28	178	206
	オンデマンド	21	0	21
	小 計	49	178	227
講習会種別 毎の集計	図書館主催	87	220	307
	オンデマンド	551	229	780
	総 計	638	449	1,087

〈図書館主催講習会一覧〉

松 江 キ ャ ン パ ス			
開催日	内 容	対 象	回数・人数
5/12	利用概要説明、図書館ツアー、OPAC	公開講座受講生	1回14名
5/12 ~21	OPAC	新入生	4回2名
5/13 ~23	図書館ツアー	新入生	8回2名
6/4	CiNii	学生・教職員	1回4名
6/11	CiNii、JDream II、Web of Science	学生・教職員	1回2名
6/18	Web of Science、Current Contents Connects	学生・教職員	1回2名
6/26	Web of Science、EndNote Web	学生・教職員	1回20名
6/27	新聞全般、聞蔵、日経テレコン21	学生・教職員	1回2名
7/2	Google	学生・教職員	1回3名
7/4	EJ全般	学生・教職員	1回1名
10/23	Japan Knowledge全般	学生・教職員	1回15名
10/31	RefWorks	学生・教職員	1回13名
11/5	CiNii、OPAC、ShimaneLINKS	学生・教職員	1回3名
11/12	OPAC	学生・教職員	1回6名
11/14	聞蔵、日経テレコン21	学生・教職員	1回3名
11/19	JDream II	学生・教職員	1回3名
11/26	Web of Science	学生・教職員	1回1名
12/3	統計資料、Web公開統計DB、OPAC、理科年表プレミアム	学生・教職員	1回3名
12/10	概要、e-Journals Access Page	学生・教職員	1回1名
松江キャンパス 計		29回	100名
出 雲 キ ャ ン パ ス			
開催日	内 容	対 象	回数・人数
4/3	医学分館の館内施設と機能、利用証申込方法など	看護部新入職員	1回41名
4/28	文献検索データベース、電子ジャーナルの利用法、My Library、文献の入手方法等	卒後臨床研修センター所属臨床研修医	1回42名
5/30・ 6/13	「看護研究発表」に向け、文献検索法、電子ジャーナルの利用法の説明	看護職	2回21名
6/26	Web of Science、EndNote Web、Current Contents Connect、JCR	教職員	1回42名

出 雲 キ ャ ン パ ス			
開催日	内 容	対 象	回数・人数
9~12月	医中誌Web、PubMed、OPAC、My Library、学外文献依頼、電子ジャーナル	医学科3年	18回 42名
10/23	Japan Knowledge	職員	1回7名
10/31	RefWorks	教職員、院生	1回12名
12/2	CINAHL	教職員	1回13名
出雲キャンパス 計		26回	220名
総 計		55回	320名

〈オンデマンド講習会一覧〉

松 江 キ ャ ン パ ス			
開催日	内 容	対 象	回数・人数
4/16~ 5/21	HP、OPAC、図書館ツアー、新聞記事	法文学部1・2回生(授業)	4回 102名
4/16	図書館概要、HP、OPAC、図書館ツアー	総合理工学部3年編入生	1回3名
4/17 ・24		総合理工学部1回生(授業)	4回87名
4/24	HP、OPAC、図書館ツアー、文献DB	生物資源科学部2回生(授業)	2回35名
5/7	OPAC、文献DB(日本語)	教育学部3回生(ゼミ)	1回4名
5/20	OPAC、雑誌論文の探し方(和雑誌)	教育学部2回生(授業)	1回12名
5/21	OPAC、CiNii、Web of Science	法文学部3回生(授業)	1回31名
6/5・12	図書館概要、HP、OPAC、新聞記事、CiNii、図書館ツアー	法文学部1回生(授業)	2回96名
6/23	CiNii、図書検索、OPAC、新聞記事	法文学部3回生(授業)	1回5名
6/26	HP、OPAC、図書館ツアー、文献DB	教育学部1回生(授業)	1回35名
7/25	JDream II、Web of Science	総合理工学部4回生・院生	1回9名
8/12	CiNii、Web of Science、新聞、OPAC、My Library	法文学部3回生	1回5名
10/16	CiNii、JDream II、OPAC、My Library	法文学部3回生(ゼミ)	1回4名
10/16	OPAC、レポート作成法、図書館ツアー	総合理工学部1回生(授業)	3回75名
11/17	OPAC、CiNii、日経テレコン21	法文学部3回生	1回6名
11/21	CiNii、JDream II、OPAC、My Library	教育学部2回生(授業)	1回5名
12/8	PuMed、Web of Science、CiNii、JDream II、電子ジャーナル、OPAC	生物資源科学部3回生(授業)	1回37名
松江キャンパス 計		27回	551名
出 雲 キ ャ ン パ ス			
開催日	内 容	対 象	回数・人数
4/21 ~28	医中誌Web、CINAHL、PubMed、電子ジャーナル、OPAC、学外文献依頼	看護学科3年	9回72名
5/1	CINAHL、PubMedなど英語文献検索法	看護院生	1回9名
5/13 ・20	医中誌Web、OPAC、My Libraryなど、館内ツアー	看護学科2年	2回 各74名
出雲キャンパス 計		12回	229名
総 計		39回	780名

## 基盤統計

### 図書 Books

#### 蔵書冊数 Holdings

2009(平成21)年3月31日現在

	本館	医学分館	合計
和漢書	602,316	63,121	665,437
洋書	150,690	55,468	206,158
合計	753,006	118,589	871,595

#### 分野別蔵書冊数 Holdings by Classifications

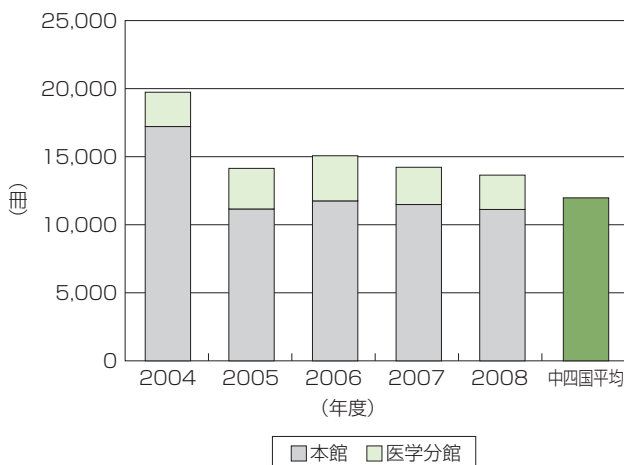
2009(平成21)年3月31日現在

	本館			医学分館	合計
	和漢書	洋書	計	計	
000 総記	56,378	10,157	66,535	1,651	68,186
100 哲学	37,745	11,428	49,173	1,589	50,762
200 歴史	56,595	7,756	64,351	1,056	65,407
300 社会科学	196,514	33,697	230,211	4,249	234,460
400 自然科学	65,037	38,789	103,826	3,606	107,432
500 技術・工学	31,314	5,036	36,350	536	36,886
600 産業	40,122	5,983	46,105	252	46,357
700 芸術	28,059	5,677	33,736	905	34,641
800 語学	24,055	10,947	35,002	2,227	37,229
900 文学	66,497	21,220	87,717	4,510	92,227
医学専門	0	0	0	98,008	98,008
合計	602,316	150,690	753,006	118,589	871,595

#### 受入冊数 Volumes Added

本館		2004(H16)	2005(H17)	2006(H18)	2007(H19)	2008(H20)
和漢書	購入	6,118	8,239	8,231	6,940	7,083
	寄贈・その他	5,206	1,643	2,598	3,495	3,210
	計	11,324	9,882	10,829	10,435	10,293
洋書	購入	517	857	550	518	325
	寄贈・その他	5,374	420	373	533	505
	計	5,891	1,277	923	1,051	830
本館計		17,215	11,159	11,752	11,486	11,123
医学分館						
和漢書	購入	1,220	1,659	1,660	1,490	1,647
	寄贈・その他	76	151	667	509	293
	計	1,296	1,810	2,327	1,999	1,940
洋書	購入	1,190	1,162	956	669	560
	寄贈・その他	36	10	34	68	22
	計	1,226	1,172	990	737	582
医学分館計		2,522	2,982	3,317	2,736	2,522
合計		19,737	14,141	15,069	14,222	13,645

#### 図書受入冊数の推移



・ 学生用図書の整備に重点をおき、2006(平成18)年度より共通経費として予算を確保し整備を進めています。教員や学生の意見も取り入れながら、限られた予算の中で有効な選書を行う一方、図書館のコレクションとなるような資料の整備にも努めています。

2004(平成16)年度が極端に多いのは、法人化の際に資産の見直しを行ったためです。

※中四国平均は、「日本の図書館 2008」(日本図書館協会 2009.1発行。2007年度の統計データ)に掲載の中四国地区国立大学のうち、島根大学と同規模校(学部数2~7学部)の7校(島根・鳥取・山口・徳島・愛媛・香川・高知)の平均値



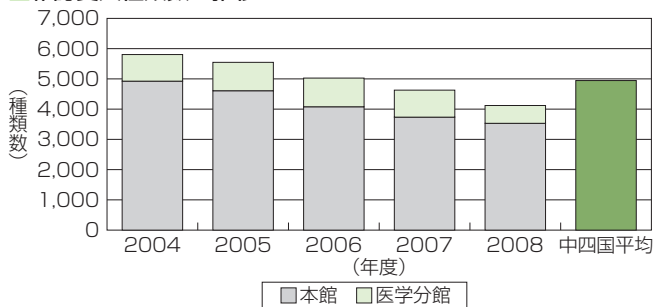
## 雑誌 Periodicals

### 所蔵種類数 Holding Titles

2009(平成21)年  
3月31日現在

	本館	医学分館	合計
和雑誌	8,841	2,221	11,062
洋雑誌	2,942	1,711	4,653
合計	11,783	3,932	15,715

### 雑誌受入種類数の推移



・配架スペース不足のため寄贈雑誌の受入見直しを行い、選択的に受け入れるようになったため全体の受入種類数は減少しました。外国雑誌は価格高騰のため購読中止が続いていますが、和雑誌は学生の利用が多いため、タイトルの見直しを行いながら購読を維持しています。

### 受入種類数 Received Titles

		2004(H16)	2005(H17)	2006(H18)	2007(H19)	2008(H20)
和雑誌	購入	673	670	626	665	631
	寄贈・その他	3,280	3,346	2,972	2,578	2,467
	計	3,953	4,016	3,598	3,243	3,098
洋雑誌	購入	868	467	368	361	296
	寄贈・その他	104	125	112	131	137
	計	972	592	480	492	433
本館計		4,925	4,608	4,078	3,735	3,531
医学分館						
和雑誌	購入	204	206	218	202	191
	寄贈・その他	319	469	446	472	208
	計	523	675	664	674	399
洋雑誌	購入	253	183	207	144	142
	寄贈・その他	104	81	78	75	48
	計	357	264	285	219	190
医学分館計		880	939	949	893	589
合計		5,805	5,547	5,027	4,628	4,120

### 主要パッケージ契約タイトル数

#### Licensed Major E-Journal Packages

2008(平成20)年度

		出版社等	タイトル数
学術基盤経費による契約		Blackwell : Synergy	753
		Cambridge Online Package	154
		Elsevier : ScienceDirect	1,900
		JSTOR : Arts / General Sciences	195
		Nature & Research誌	11
		Oxford Online Package	170
		ProNAS	1
		ProQuest : Academic Research Library / Medical Library	2,250
		Science	1
		SpringerLINK	1,200
		Wiley InterScience	330
	計	6,965	
部局経費等による契約		American Chemical Society (ACS)	34
		American Physical Society (APS)	7
		British Medical Journal	28
		IEEE : CSDL	23
		Karger	75
		Lippincott Williams and Wilkins (LWW)	100
		Medical Online	300
		PsycARTICLES	65
		Thieme	33
		UniBio	6
		その他単体	54
	計	725	
合計			7,690

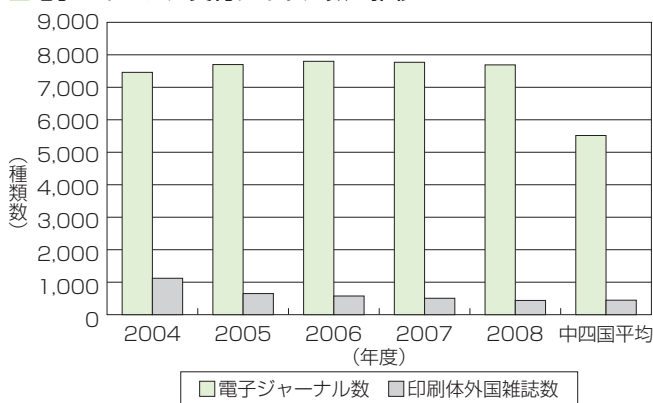
・共通経費等の措置により電子ジャーナルの契約タイトル数は維持されていますが、冊子体の外国雑誌は、価格高騰、研究室予算の逼迫などの影響で減少が続いています。パッケージに含まれないタイトルの中には各専門分野にとって重要なコアジャーナルもあり、体系的な整備が課題となっています。

## 電子ジャーナル Electronic Journals

### 契約タイトル数 Licensed E-Journals

	2004(H16)	2005(H17)	2006(H18)	2007(H19)	2008(H20)
電子ジャーナル数	7,460	7,700	7,800	7,770	7,690
印刷体外国雑誌数	1,121	650	575	505	438

### 電子ジャーナル契約タイトル数の推移



## 図書館資料費 Expenditures for Library Materials

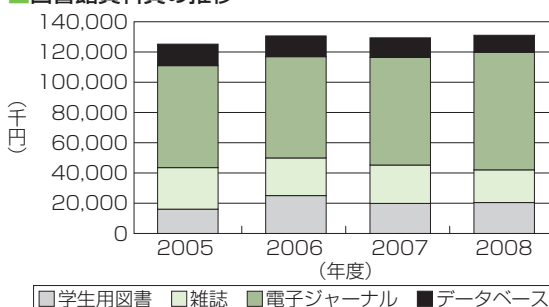
### 学生用図書・雑誌・電子ジャーナル等

#### Books, Periodicals, Electronic Resources

(千円)

		2004(H16)	2005(H17)	2006(H18)	2007(H19)	2008(H20)
本館	学生用図書	13,498	11,007	18,427	14,745	15,203
	雑誌	15,857	9,582	8,323	8,895	6,227
	計	29,355	20,589	26,750	23,640	21,430
医学分館	学生用図書	4,703	5,069	6,608	5,128	5,226
	雑誌	38,408	17,869	16,580	16,489	15,404
	計	43,111	22,938	23,188	21,617	20,630
電子ジャーナル		14,182	67,441	66,962	71,146	77,746
データベース		15,048	14,220	13,717	12,951	11,239
合計		101,693	125,188	130,617	129,354	131,045

### 図書館資料費の推移



・電子ジャーナルやデータベースは高騰が続いており、どこの大学でも深刻な問題となっています。本学でも、資料費の中で電子ジャーナルの占める割合が増加してきており、契約中止も考えざるを得ない状況です。安定した財源の確保と、バランスのとれた資料整備が必要です。

## サービス統計

## 利用 In-Library Use

## ■開館日数 Opened Days

	本館	医学分館
平日	229	242
土・日・祝日	72	106
合計	301	348

## ■利用対象者数 Staff &amp; Students 2009(平成21)年5月1日現在

	本館	医学分館	合計
教職員	2,376		2,376
学生	5,210	1,068	6,278
学外者	515	90	605
合計			9,259

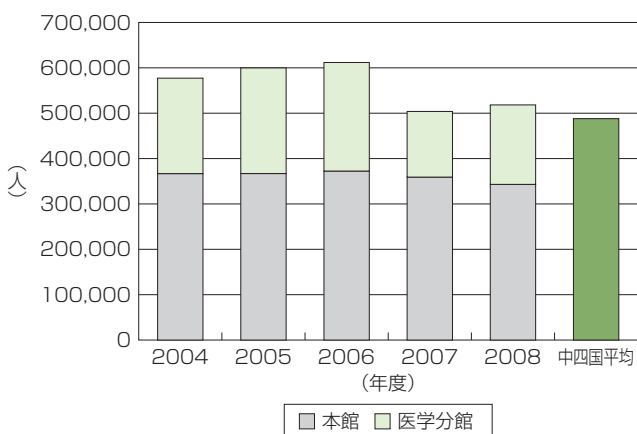
## ■入館者数 Visitors

		2004(平成16)	2005(平成17)	2006(平成18)	2007(平成19)	2008(平成20)
本館	学生・教職員	358,585	358,033	361,486	350,163	333,097
	学外者	8,252	8,941	11,001	9,017	10,033
	計	366,837	366,974	372,487	359,180	343,130
医学分館	学生・教職員	210,415	232,813	239,307	144,703	175,151
	学外者	548	446	535	323	374
	計	210,963	233,259	239,842	145,026	175,525
合計		577,800	600,233	612,329	504,206	518,655

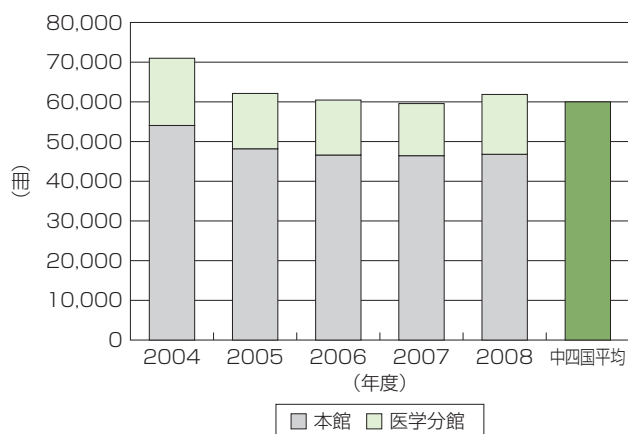
## ■貸出冊数 Circulations

		2004(平成16)	2005(平成17)	2006(平成18)	2007(平成19)	2008(平成20)
本館	学生	50,659	44,735	42,022	41,198	41,095
	教職員	2,336	2,425	2,770	3,257	3,814
	学外者	1,057	1,023	1,820	1,983	1,888
	計	54,052	48,183	46,612	46,438	46,797
医学分館	学生	13,045	10,350	9,469	9,662	11,429
	教職員	3,363	2,736	3,498	2,928	3,106
	学外者	546	854	879	539	536
	計	16,954	13,940	13,846	13,129	15,071
合計		71,006	62,123	60,458	59,567	61,868

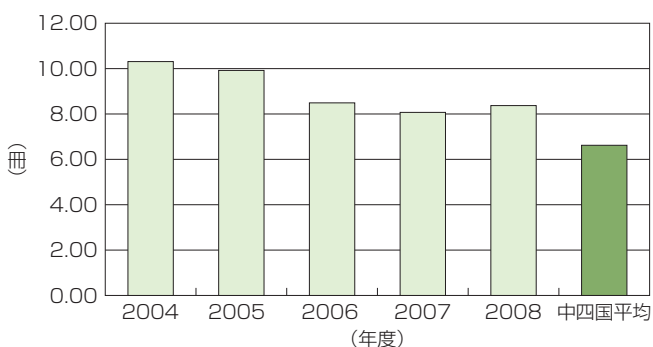
## ■入館者数の推移



## ■貸出冊数の推移



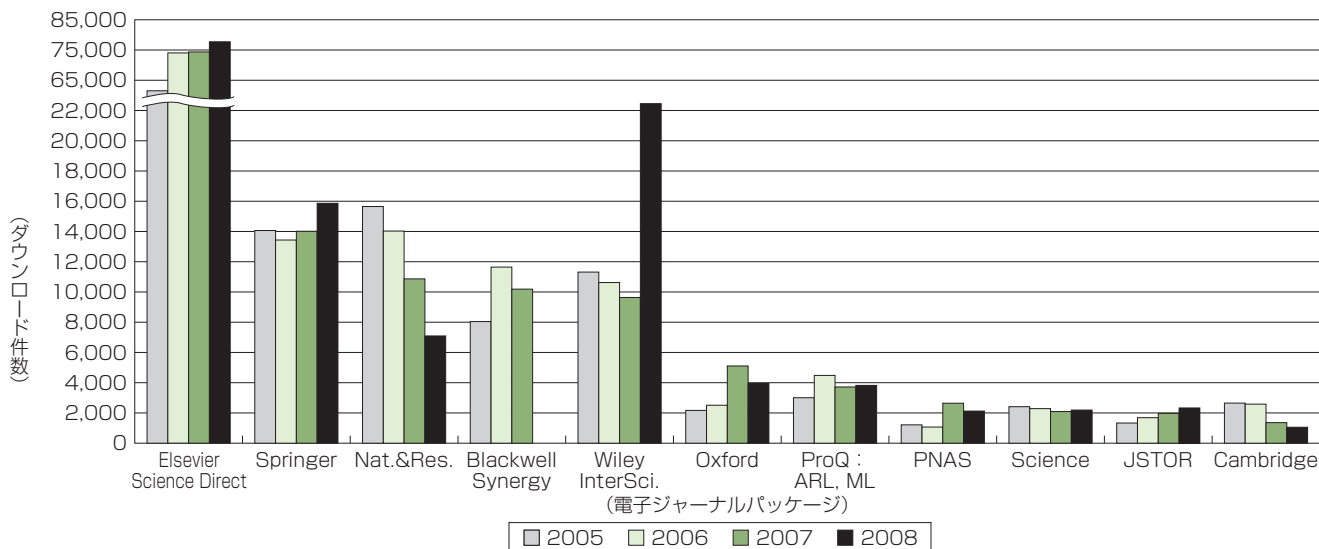
## ■学生1人当たりの貸出冊数の推移



・入館者数の減少は、電子資料の利用が進み、来館しなくても資料が利用できるようになったことが影響しているのでしょうか。さらにここ数年、学生の貸出冊数も伸び悩んでおり、シラバスとの連携や図書紹介など、利用促進のための対策を進めているところです。



■主要電子ジャーナルの利用状況(ダウンロード件数)



- ・ Blackwell-Synergyの利用件数(2008)は、2008年の途中でWiley InterScienceに統合されたため、Wileyに含めています。
- ・ 電子ジャーナルの利用は安定期に入っていますが、一部パッケージでは減少傾向も見受けられます。

相互協力 Interlibrary Loan

■文献複写件数 Photocopies

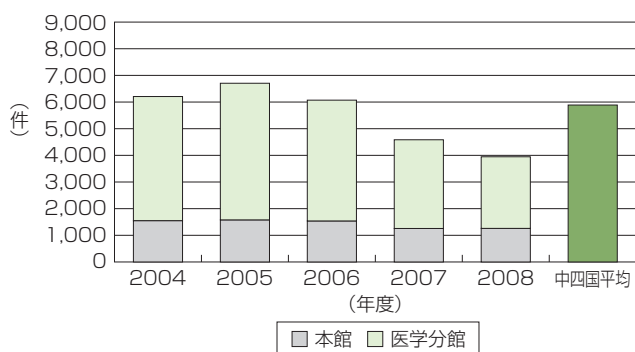
		2004(H16)	2005(H17)	2006(H18)	2007(H19)	2008(H20)
本館	国内受付	1,550	1,579	1,539	1,263	1,260
	国内依頼	3,069	3,537	3,917	4,018	4,039
	海外受付	0	0	0	0	0
	海外依頼	72	60	26	16	25
医学分館	国内受付	4,665	5,126	4,532	3,328	2,687
	国内依頼	5,251	4,787	3,789	4,062	3,190
	海外受付	0	0	0	0	0
	海外依頼	33	25	4	5	13

■現物貸借件数 Interlibrary Loans

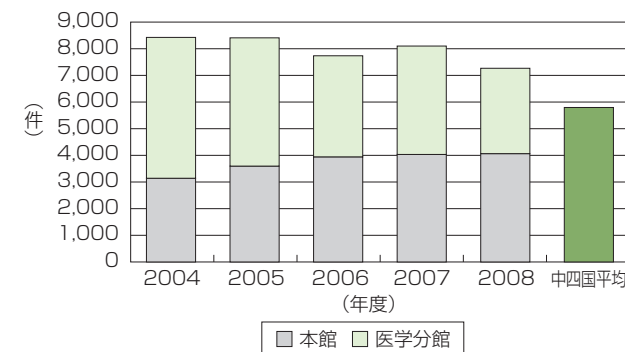
		2004(H16)	2005(H17)	2006(H18)	2007(H19)	2008(H20)
本館	国内貸出	235	215	218	224	219
	国内借受	185	237	292	332	472
医学分館	国内貸出	27	24	28	26	17
	国内借受	26	9	14	14	24

※海外との現物貸借は実施していない

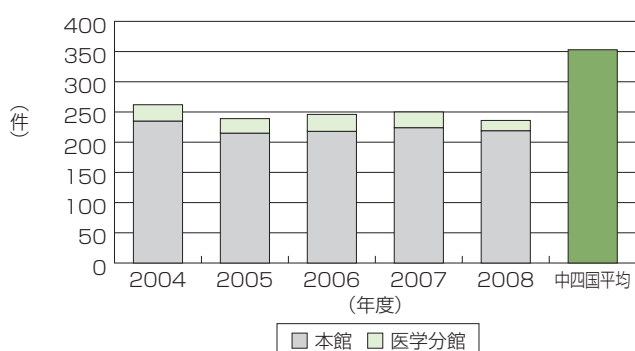
■文献複写受付(提供)件数の推移



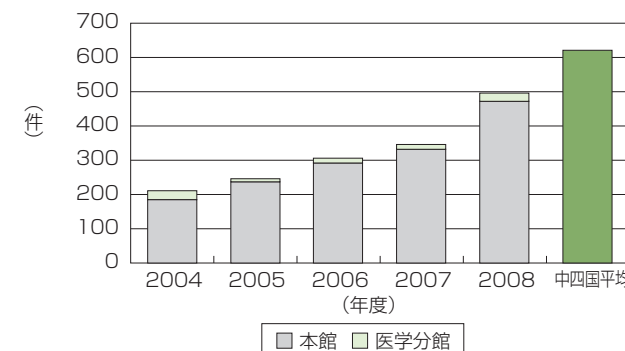
■文献複写依頼(取寄)件数の推移



■現物貸借受付(貸出)件数の推移



■現物貸借依頼(借受)件数の推移



- ・ 文献複写の依頼件数は、電子ジャーナルの影響で外国雑誌論文が減少する一方で、和雑誌論文データベースの利用環境が向上し、検索が容易にできるようになったことによる件数増加のため、全体的には横ばい状態です。現物貸借は、本館で学年による制限をなくしたため、依頼件数が増加しました。

## 図書館日誌(2008.4~2009.3)

	全学・松江キャンパス(本館)	出雲キャンパス(医学分館)
4/25	島根県大学・高等専門学校図書館協議会協定書調印、設立記念式典	
4/30	第1回附属図書館運営委員会 本館運営専門委員会	
5/14	新任教員図書館ガイダンス	
5/19		第1回医学分館運営委員会
6/4	ホームページリニューアル	
6/11	島根県大学・高等専門学校図書館協議会第1回実務者ワーキンググループ会議	
6/13	「ブック★コンパス」スタート	
6/20	職員研修会「和装本の取り扱い」	
7/2	島根県大学・高等専門学校図書館協議会設立記念講演会「ニュージーランドにおける図書館の学術的サービス」	
7/4		ニュージーランド・ワイカト工科大学図書館長来館
7/9	第2回附属図書館運営委員会	
7/9~11	不用雑誌無料提供会	
7/20		大森家三医師顕彰碑除幕式 企画展示・講演会『出雲にもたらされた華岡流医術の世界』
8/23~24		
8/25~29	インターンシップ1名受入	
9/5	NACSIS-ILLシステム地域講習会	
9/11	1階情報サービスグループ事務室統合	
9/17		第17回島根県医療関係機関等図書館(室)懇談会(医図懇)総会
9/30	デジタル・アーカイブシステム学内運用開始	
10/1	附属中学校の「総合的な学習の時間」体験活動として3名引き受け(1回目)	
10/23~24	第49回中国四国地区大学図書館研究集会(山口大学)において事例発表	
10/23~25		スーパーサイエンスハイスクール(益田高校)の生徒来館
10/25	3館合同企画 シンポジウム「アメリカのラフカディオ」	
10/25~11/2	3館合同企画 企画展示「アメリカのラフカディオ」	
10/31	著者と語る集い	
11/4	附属中学校の「総合的な学習の時間」体験活動として3名引き受け(2回目)	
11/5	学生選書ツアー	
11/5~6	ブックフェア2008	
11/21~23	第4回図書館蔵書リユース市	
11/28	AED(自動体外式除細動器)設置	
12/11~18	各学部教員との懇談会	
12/22		医学部教員との懇談会
12/18		第5回島根県病院図書室セミナー
12/25	第3回附属図書館運営委員会	
2/13~3/9	アメリカ春期研修(アーカンソー大学)の学生引率として職員1名を派遣し図書館で研修	
2/26	遺跡資料リポジトリ・セミナー(会場:岡山大学)を開催	
3/16	島根県大学・高等専門学校図書館協議会職員研修会	
3/31	第4回附属図書館運営委員会	



## 年間刊行物

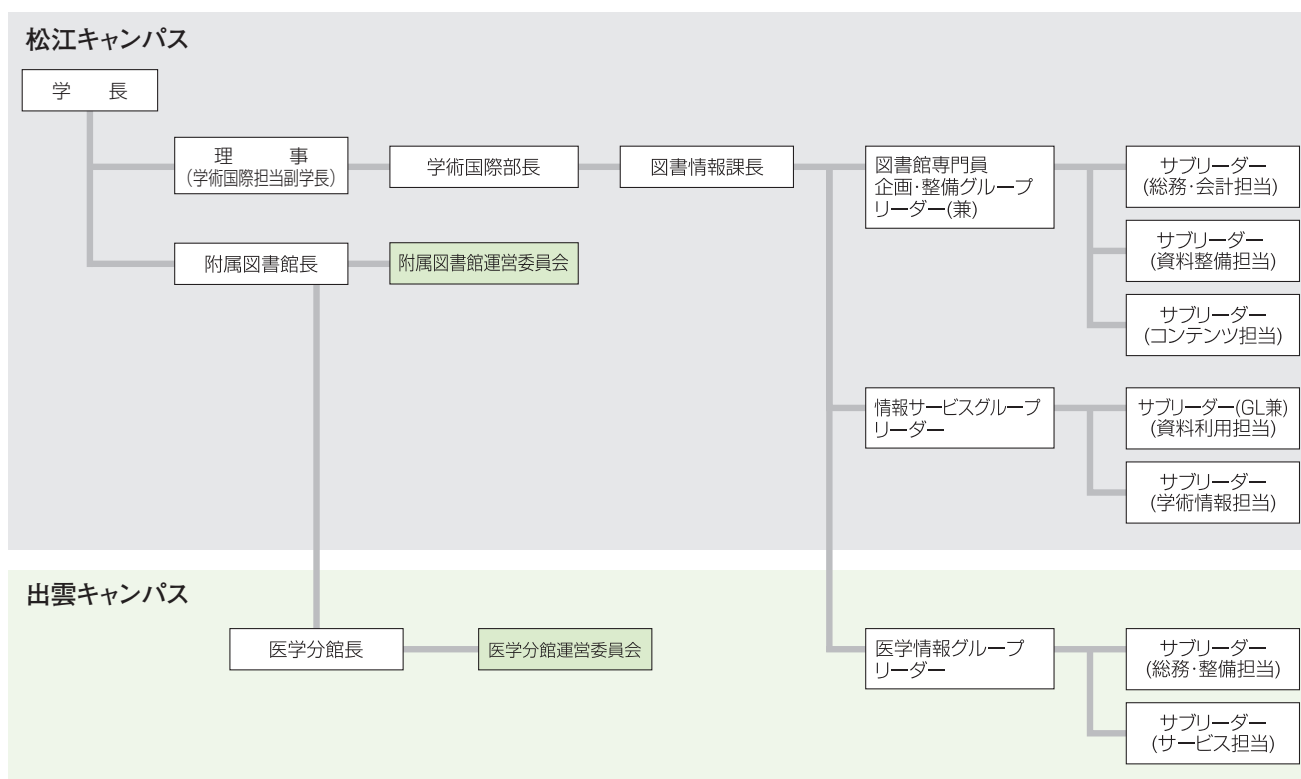
2008(平成20)年 7月	島根大学附属図書館年報2007 A4判,18p. トピックス、図書館の動向、統計 ほか
2008(平成20)年10月	図書館報「沁雲」第9号 A4判,20p. 特集1 デジタル・アーカイブの誕生 特集2 地域図書館ネットワークが目指すもの
10月	<企画展示・シンポジウムパンフレット>アメリカのラフカディオ A4判,16p.
2009(平成21)年 3月	島根大学附属図書館概要 A4判,20p.
3月	<テキスト共同刊行>学術情報リテラシー -情報活用能力の向上のために- 島根大学「学術情報リテラシー」編集委員会 第3版 B5判,143p.

## 新聞等で報道された附属図書館

2008(平成20)年 4月26日	山陰中央新報	・島根県大学・高等専門学校図書館協議会設立
4月26日	中国新聞	
5月21日	朝日新聞	
2008(平成20)年10月20日	文教ニュース	・デジタル・アーカイブシステムの学内運用を開始
2008(平成20)年10月23日	山陰中央新報	・シンポジウム・企画展示「アメリカのラフカディオ」開催
11月24日	文教ニュース	

## 組 織

【2006(平成18)年4月改正】



## 人事異動

【2008(平成20)年4月1日発令】

氏名	異動後	異動前
野村 正人	学術国際部図書館情報課長	徳島大学情報部 学術情報マネジメント課長

## 島根大学附属図書館年報 2008

2009年(平成21年)7月発行

発行：島根大学附属図書館

本館／〒690-8504 松江市西川津町1060  
TEL (0852) 32-6083 FAX 32-6089  
医学分館／〒693-8501 出雲市塩冶町89-1  
TEL (0853) 20-2092 FAX 20-2095

SHIMANE  
UNIVERSITY  
LIBRARY  
Annual Report  
2 0 0 8

<http://www.lib.shimane-u.ac.jp/>



人とともに 地域とともに  
国立大学法人  
島根大学